

バイオガス発電を活用した家畜排せつ物の適正処理と液肥の地域利用



バイオガス発電施設の外観



バイオガス発電機

<概要>

- 事業実施主体：京都府南丹市なんたんし（管理：(公財)八木町農業公社）
（京都府南丹市）
- 発電設備：バイオガス発電
（名称：南丹市八木バイオエコロジーセンター）
発電出力 80kW×1基、70kW×2基、25kW×3基
発電電力量 150万kWh/年
- 燃料：地域の家畜排せつ物等（メタン発酵させて発電）
65.2 t /日量最大（家畜排せつ物/食品廃棄物）
- 建設費：17億2千万円
- 運転開始時期：平成10年4月（平成26年10月データ）

<特徴>

- 家畜排せつ物や食品廃棄物の適正処理を目的として、たい肥化施設とメタンガスプラントを設置。
- 発生したメタンガスを用いて発電を行い、たい肥化施設や排水処理設備等で自家消費することにより、施設の電気代を節減。余剰分は売電。
- メタンガスプラントで発生する消化液は、約2割を液肥として、近隣農家の田畑に散布（残りは浄化処理の後、放流）。
- 施設で生産するたい肥及び液肥を利用して生産される京ブランド野菜の販売が好評。